

研究の背景・目的

1. 現在濃厚飼料に依存した肉用牛肥育は輸入飼料の高騰等により、生産コストが増大し経営を圧迫しています。
2. 耕作放棄地の拡大により自給飼料生産基盤も減少しています。
3. 消費者ニーズが多様化し、赤味肉や脂肪交雑の少ない牛肉への関心が高まっています。
4. そこで、本研究では耕作放棄地を有効利用し、放牧や飼料稲、牧草生産を組み合わせることで飼料自給率を向上させます。また生産された自給飼料や放牧を活用して輸入濃厚飼料に依存しない肥育体系を確立します。
5. 自給飼料を活用した適度な脂肪交雑の赤味肉の経済性について調査し、新たな肉用牛肥育体系の実証研究を実施します。

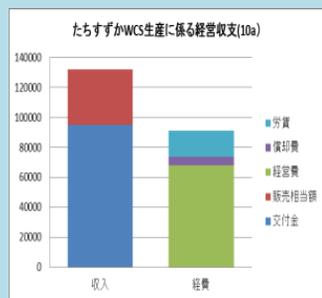
研究方法と成果

1. 飼料稲と牧草の2毛作

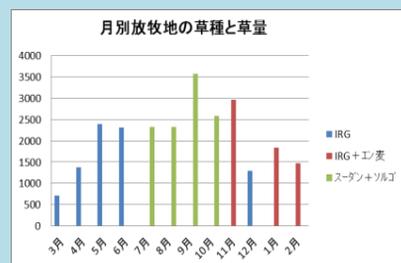


飼料稲(たちすずか)とイタリアライグラスの栽培

多収品種であるたちすずかの移植栽培と収穫後にイタリアライグラスを不耕起で播種することで、年間収量6tを確保しました。



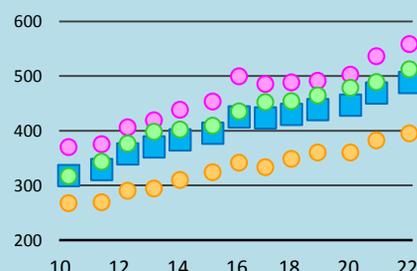
2. 耕作放棄地再生と飼料生産



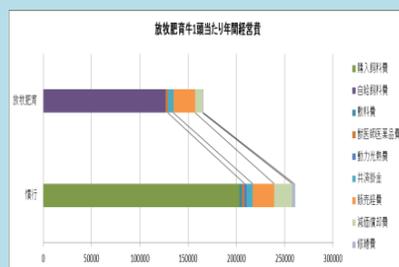
耕作放棄地の草地化手法

耕作放棄地に春季イタリアライグラス、夏季スーダングラス、冬季えん麦を栽培し、放牧利用と採草利用を組み合わせた周年放牧技術を確立しました。

3. 放牧肥育牛の増体と経営評価



放牧牛の体重の推移



放牧肥育技術体系の経営評価

飼料生産および牛肉生産に係る労働時間や経費の調査を行い、飼料代40%削減、生産コスト30%削減を可能にしました。

研究成果の活用場面・その他

放牧や自給飼料を活用することで肉用牛肥育経営の低コスト化と地域内の農地の維持管理が図られます。消費者ニーズに応える多様な牛肉として特産品化、6次産業化を図ることができます。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科 : 中山間C 近中四C 島根大学(国補事業)

研究担当者 : 帯刀 一美(たてわき かずみ)
坂本 真実(さかもと まみ)

問い合わせ先 : 0854-76-3817

E-mail : chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名 : 国産飼料の高度活用による資源循環型牛肉生産システムの実証研究(平成27年度)

